

レモンの優良系統について

宮迫一郎・児島道弘・坂元三好
(鹿児島県果樹試験場)

MIYAZAKO, I., KOZIMA, M. and SAKAMOTO, M.
On the Superior Strain of Lemons

レモンの自由化に対処して、レモン栽培の安定と発展をはかるために、昭和36年から3ヶ年、九州地区を対象にして高温多雨地帯に適したレモンの優良系統選抜を実施したのでその結果を報告する。

1. 調査経過概要

初年目の36年度に九州地区のレモン栽培の実態調査を第1表のとおり実施した。

第1表 九州地区レモン栽培調査地

園主名	場 所	品 種 名
高 井 幹 二 郎	福岡県福岡市小田 大分県北海郡佐賀 関町蜜生	ユーレカ ピラフランカ、 リスボン
日 名 子 正 路	大分県臼杵市佐志 生町長浜	ピラフランカ、 リスボン
稲 岡 嘉 一	熊本県八代郡龍北 村吉野	リスボン
鶴 田 源 志	熊本県芦北郡田浦 町田浦	ピラフランカ
伊 知 地 実	宮崎県南那珂郡南 郷町津屋野	リスボン
南郷園芸高校	宮崎県南那珂郡南 郷町大姉浦	ユーレカ
本 坊 農 園	鹿児島県加世田市 津貫	リスボン、 ピラフランカ
西 昭 義	鹿児島県谷山市山 田町	ユーレカ
梅 田 俊 男	鹿児島県垂水市市 木	ピラフランカ

その結果 優良個体として考えられたのは、熊本県田浦町の鶴田源志園と鹿児島県加世田市の本坊農園であった。

37~38年に鶴田園と本坊農園について、生育と収量、耐病性と耐寒性、採取時期と果実の特性を調査した。この中で有望と考えられた本坊農園の10個体は、収量と品質の点で対照樹と差が認められなかったが、鶴田園の5個体は優良系と認められた。

2. 鶴田園の優良個体の特性

鶴田園については、昭和26年から園主の記録によつ

て優良系5樹は収量の高いことが判然としていたが、本調査結果でも優良系5樹の特性からみても、第2表のように樹勢旺盛で、葉が優良系は対照系に比較し、長く、巾も広く、葉の大きいことが判然とした。

第2表 鶴田園の樹性比較 (5樹平均)

系統名	幹周		樹 容 積		春 枝		葉		樹勢
	接木15cm	上容積	長さ	葉数	刺数	長さ	巾		
優良系	75.1	103	14.3	6.7	3.3	14.8	6.8	9	
対照系	62.0	62	12.3	6.1	2.7	11.1	5.1	5	

収量では第3表のように37~38年の平均で1樹あたり対照系の557個に比較して、優良系は1342個で、1m³あたり結果量でも対照系の9.85個に対して、優良系は13.45個と収量の高いことがわかる。

第3表 鶴田園の収量

系統名	収 量			1m ³ あたり結果数		
	37年度	38年度	平均	37年度	38年度	平均
優良系	924	1,759	1,342	8.8	18.1	13.45
対照系	416	698	557	7.2	12.5	9.85

耐病性、耐寒性では、病害の発生が優良系は、カイヨウ病の発生が少ない傾向がみられる。寒害は37年度の積雪後の調査によつて、優良系は対照系に比較し、落葉が少なかったことと、凍害果が少なかったことがあげられる。優良系の凍害果の少なかったのは、優良系は葉数が多く、樹冠内の果実であつたために、外成り果実のように凍害をおこした果実が少なかったものと考えられる。

第4表 耐病性および耐寒性

系統名	病 害 発 生		積雪による被害	
	ソウカ病	カイヨウ病	落 葉	果実の凍害
優良系	+	+	5%	25%凍結
対照系	+	++	10	76%凍結—一部変質

*調査は37年度 積雪日数 12日 積雪量 30~50cm
病害発生 十少

果実の特性は、果形、油胞数、比重、果皮歩合では差はみられないが、果汁歩合、クエン酸含量が、対照系に比較して優良系が高い傾向がみられる。

第5表 果実の特性

系統名	果形 指数	乳頭 の高さ	油胞数 1×0.5cm	果実 比重	果皮 歩合	果汁 歩合	検糖計 示度	クエン酸
優良系	0.74	11.7	36.5	0.94	34.1	34.6	7.2	5.54
対照系	0.75	10.5	37.0	0.93	34.1	31.3	7.0	5.36

3. 鶴田系の次代検定

鶴田系の次代について、全国的に有望といわれる兵庫県東の榎本系（リスボンといわれている）を対照として、昭和36年は2年生苗木を同時に同一ほ場に栽植してある。田浦町の多田良清園の4年生について調査した。

樹性については、幹周、樹冠の大きさ、春枝、葉、樹勢については大差は認められなかつた。収量は榎本系がやや高いようであつたが、数年後でなければ判然としなない。

果実の特性についても一定の傾向はみられず、大差がないものとする。

本調査結果からみて、鶴田系が榎本系に劣るものと

は考えられない。

第6表 鶴田系の次代における樹性と収量（5樹平均）

系統名	幹周		樹		葉		樹勢	収量	1m ² あたり 個数
	接木5cm上	容積	長さ	巾	cm	m ²			
鶴田系	27.8	21.8	13.1	6.4	9	149.2	7.3		
榎本系	23.8	22.4	12.1	5.9	9	181.2	8.4		

第7表 鶴田系の次代における果実特性

系統名	果形 指数	乳頭 の高さ	油胞数 1×0.5	果実 の比 重	果皮 歩合	果汁 歩合	含核数	検糖計 示度	クエン酸
鶴田系	0.73	10.9	36.5	0.94	36.78	27.34	57.0	8.0	5.53
榎本系	0.77	13.0	36.5	0.94	33.75	31.32	57.4	7.4	5.46

4. むすび

九州地区のレモン園を実態調査の結果、高温多雨地帯に適した有望系統として、熊本県田浦町の鶴田系の5樹を優良系として認められる。

なおこの系統は、ビラフランカとして導入されたものであるが、リスボンと判定されるもので、優良系5個体は個体間に差異が認められないので、同一系として取扱かつてよいと考え、優良系の平均をとつて報告した。